

スキルアップ（ピアノ）講座の教育的効果に関する一考察

A Study of Educational Effects of “Skill-up Piano Lesson”

澤田 須賀子・友廣 憲子

I はじめに

本学保育専攻は、幼稚園教諭・保育士養成課程における音楽教育を行っている。保育者を目指す学生にとってピアノ技術は必要な要素であり、実際に保育所や幼稚園での採用試験において音楽に関する課題を課している保育所・幼稚園が多数存在する。

本学の保育専攻入学者の約2～3割はピアノ未経験者だが、二年次の6月には教育実習を控えており、入学して一年後にはピアノ演奏力のある程度のレベルにまで到達する必要がある。

保育専攻では高校と短期大学の接続教育の一環として、大学入学前講座を開講している。学習に対する動機づけを目的としており、講座の一つとしてピアノ指導も設けている。入学前にピアノ経験の有無を調査し、学生のレベルを確認した上で、練習の方法の提案や春休み期間の課題を提示している。

この取り組みは経験者と未経験者の差を縮め、少しでも学生をつまづき・困り感が軽減できるよう、入学前から行っており、教員側としても学生の入学後の指導に役立てている。

ピアノ未経験者を、一年間である程度の演奏レベルに到達することは容易なことではない。近年の入学者の背景を踏まえ、保育専攻では学習支援の一環として平成24年度からスキルアップ（ピアノ）講座を設けた。学生と共に取り組んできたこれまでの3年間の講座内容を考察する。

II 目的

平成24年度より3年間行ってきたスキルアップ（ピアノ）講座の内容を考察し、今後の講座の向上を図ることを目的とする。

III 保育スキルアップ（ピアノ）講座について

1. 講座内容

講座回数	各クラス 週一回（90分） （2クラス編成）
対象者	子どもと音楽Ⅰaの初回授業で学生のレベルを確認し、音楽教員で判断し選出する。選出された学生には個別に連絡を入れ、スキルアップ（ピアノ）講座の受講を義務づける。
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・練習の習慣づけ。 ・目標を持ち達成感を得る。 ・個別に応じた練習方法の提案。 ・ピアノ技術向上。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的意識を持ち、自主練習ができるようになる。 2. 右手の伴奏ができるようになる。 3. 左手の伴奏（コードでも良い）ができるようになる。 4. 童謡を止まらず弾けるようになる。 5. 童謡10曲 弾き歌いができるようになる。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・前期終了後に対象者全員で弾き合い会を実施。 ・後期終了後、成果発表会を行う。 ※教員から、童謡弾き歌いを10曲合格と認められることを講座の卒業条件とする。
担当教員	2名
練習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・練習計画表をもとに、マンツーマンレッスン。 ・待機学生はピアノレッスン室で各自練習。 ・基本、童謡の練習のみ。

この講座は、他の授業と同じようにまずは全員で集まり出席を取る。その後、自分の順番まではレッスン室にて自主練習を行う。初回は練習計画表(図1)を用いて、ピアノ演奏に対する困り感や個人の目標を一人ひとりと丁寧に向き合い、確認をしている。

図1

保育技術スキルアップ
保育1年()番 氏名()

<p>○現在困っている事</p> <p>指が重い気がする</p>	<p>○不安に思っている事</p> <p>練習が長い</p>	<p>○一年間保育技術スキルアップを経験しての感想</p> <p>習ったことが多くて、習ったことが役に立つようになった。ピアノ演奏も弾けるようになった。友達と練習して楽しかった。</p>
----------------------------------	--------------------------------	---

保育技術スキルアップを受講するにあたって
目的ピアノに関する困り感を見つけ、解決策を模索する。少しでも苦手意識を克服する。
実践に向けて練習を積み重ね、ピアノ技術を保育現場で活かせるようになる。

★目標 ex)課題曲5曲5月までに仕上げ、階名を覚えるようになる。両手で弾けるようになる。

<p>大塚先生の目標と私の目標</p> <p>大塚先生は、両手で弾けるようになる。楽譜を覚えていく。1曲と3曲とを覚える。</p>	<p>両手で弾けるようになる。楽譜を覚えていく。1曲と3曲とを覚える。</p>	<p>課題曲を5曲5月までに仕上げ、階名を覚えるようになる。</p>
---	---	------------------------------------

★手段 ex)毎日15分練習する。右手と左手の練習を交互に行う。毎日一曲階名読みを練習する。

<p>何十回も練習して、指が疲れる。練習が長い。</p>	<p>両手で弾けるようになる。楽譜を覚えていく。1曲と3曲とを覚える。</p>	<p>1週間2曲までマスターして練習する。</p>
------------------------------	---	---------------------------

その後、担当教員で個人のレベルを把握し学生のレベルに応じた指導法で講座を進めている。

前期は対象者が多く、90分の講座では全員のレッスンをすることが出来ないため、練習ノート(図2)を通して学生の状況を把握するようにした。

図2

スキルアップ(ピアノ)講座 練習計画表

授業日	今日の課題	課題達成度	来週に向けての課題	レッスン日までの自主練習内容
4/10 15:40~		さんごけがら 一歩、一歩進んで わがやまのこころ	一番に友達と練習して、いっしょに練習する。	いっしょに練習する。
4/17 15:40~	両手練習	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。
4/24 15:40~	両手練習	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。
5/8 15:40~	両手練習	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。
5/15 15:40~	両手練習	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。
5/22 15:40~	両手練習	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。
5/29 15:40~	両手練習	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。	5/18まで練習する。
<p>途中経過 現在の自分と先の自分 何が変化はあったか</p> <p>いっしょに練習して、友達と練習する。楽譜を覚えていく。1曲と3曲とを覚える。</p>				

学生にとっては苦手なピアノを通常授業外にも受講しなければならず、モチベーションが保てない学生もいる。毎年、無断欠席をする学生もいるが強制的に受講させるのではなく、本人の気持ちも汲みながら、連続欠席をした学生には自分の足で講座に向かわせるような言葉かけを心がけている。

この講座は練習の習慣づけという目的もあるが、「子どもと音楽 I a」の音楽教員と学生の進歩状況を共有し、学生の困り感を共通理解することにより、学生サポートもより強化できる。事例を挙げると、楽譜に階名を書く行為は基本勧められることではないが、ピアノ初心者学生は、音符を読むことが苦手で、拍子も取れず苦しんでいる。何も手がかりがなければ練習意欲の低下につながり、学習効果が得られない。このようなつまづきに気づき、学生の視点に立って音楽教員とスキルアップ講座の教員が共に協議をし、問題解決に取り組むようにしている。この事例の解決策として、「階名は人に聞かず、自分で書くこと。その際、シャーペンを使用すること。」「演奏が出来るようになったら、楽譜に書いた階名を消しゴムで消すこと。」この2つのルールを決めた。教員同士が共通理解をすることにより、学生が戸惑うことなくスムーズに練習に取り組めることは学生の困り感の解消・目標達成に向けての意欲向上につながると考える。

2. 学生の意識調査

(1) 調査対象および時期

平成24年度対象者、平成25年度対象者、平成26年度対象者の学生に自己評価を行った。ここから見える課題について考察する。

- ・保育スキルアップ(ピアノ)講座
初回講座 自己評価【4月】
平成24年度~平成26年度の対象者全員
- ・保育スキルアップ(ピアノ)講座
スキルアップ卒業時もしくは成果発表会后【2月】
平成24年度~平成26年度の対象者全員
- ・前期試験と後期試験の比較
子どもと音楽 I a【前期】ピアノ成績
子どもと音楽 I b【後期】ピアノ成績

平成 24 年度～平成 26 年度の対象者全員

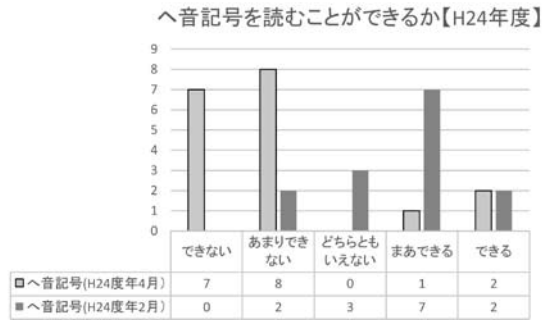
■ヘ音記号を読む事ができるか

・スキルアップ（ピアノ）講座
自由記述アンケート

【スキルアップ卒業時もしくは2月成果発表会后】

平成 24 年度～平成 26 年度の対象者全員

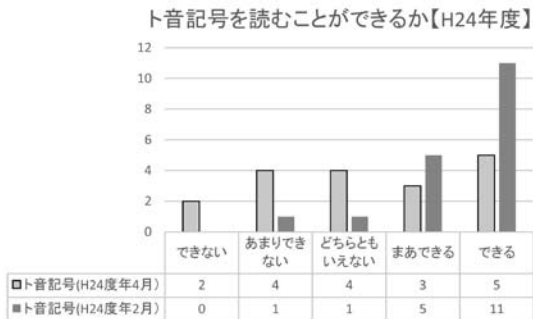
	24 年度	25 年度	26 年度
対象者	22 名	23 名	31 名
講座卒業者 (10 曲合格者)	5 名	8 名	24 名



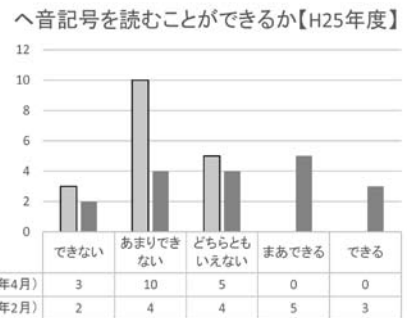
アンケート有効者 n = 18

(2) 調査結果および考察

■ト音記号を読むことができるか



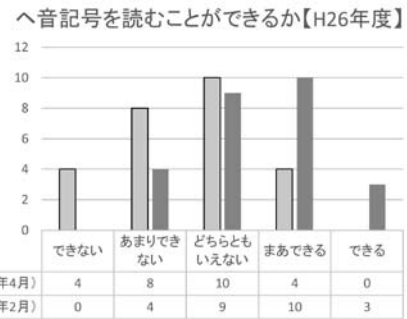
アンケート有効者 n = 18



アンケート有効者 n = 18

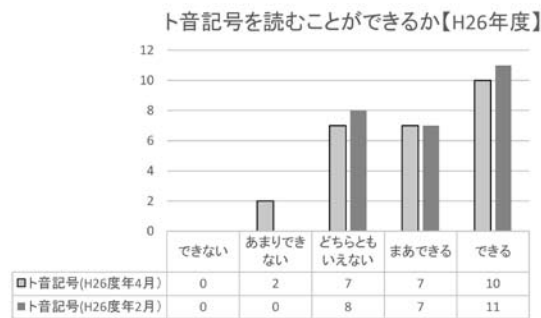


アンケート有効者 n = 18

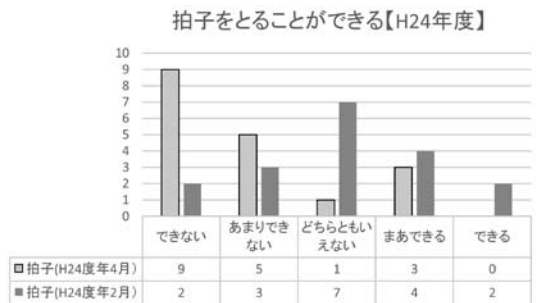


アンケート有効者 n = 26

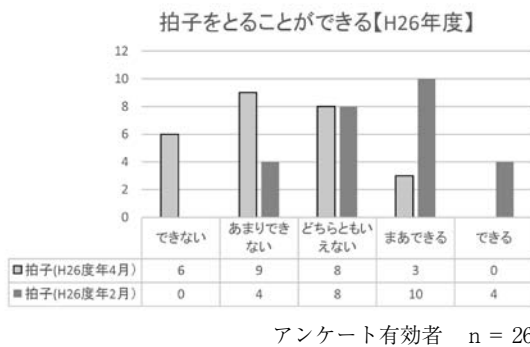
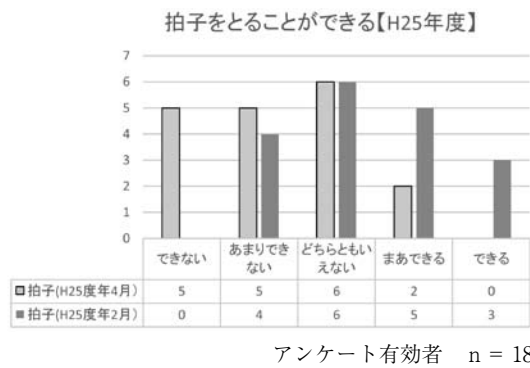
■拍子をとることができるか



アンケート有効者 n = 26



アンケート有効者 n = 18



全ての項目において講座終了後の2月の自己評価は4月よりも高く、学生の自主練習の取り組みや演奏を聞いても、明らかに実力がついていることがわかる。なかには、実力はついているのだが、人と比べてしまい自己評価を下げてしまう学生もいる。

「ト音記号を読むことができるか」という設問に対して、H24年度の4月の自己評価で「できる」と答えたのは5名のみで全体的にもばらつきが見られる。平成25年度と平成26年度の受講生は4月の時点で「できる」「まあできる」と答えている学生は半数を占めている。

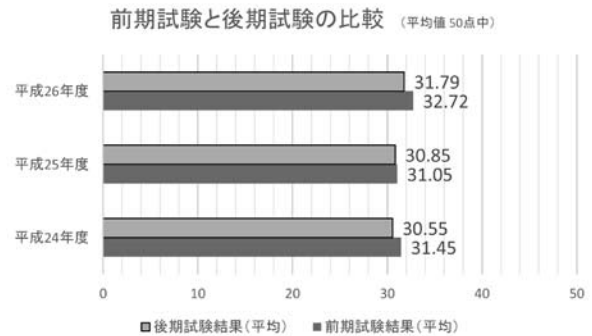
「ヘ音記号を読むことができるか」という設問では「できる」と答える学生が極端に少なくなっている。

H26年の対象者は、卒業者を24名と過去3年間で一番多く出している。3年間の自己評価を比較した時、4月の時点で「ト音記号を読むことができる」「ヘ音記号を読むことができる」という設問の回答に「どちらともいえない」「まあできる」「できる」と答えた学生が半数を占めたのはH27年度の対象者のみである。この結果を見ると最初のスタート時点で楽譜が読めていると、演奏力も早く身につくことが考えられる。

「拍子をとることができるか」という設問は、3年

間ともばらつきが見られる。初心者学生の多くは楽譜を読む事が苦手である。楽譜を読みながらの練習にストレスが溜まり、楽譜から目を背け、教員の模範演奏やCDなどから課題曲のメロディーを聞いて音を記憶している。学生は楽譜を見ながらの練習をしているつもりが、音の記憶を辿り演奏をするため、拍を保つことができず間違ったメロディーで曲を覚えてしまう。正しいメロディーに戻すには時間がかかり、新しい曲の練習時間が削られてしまい悪循環に陥る。初心者学生には暗譜ではなく、音符を追いつながり演奏するように伝えているが、楽譜が読めないことを理由に、記憶のメロディーに頼ってしまい、改善に至っていない学生は多数いる。

□前期試験と後期試験の比較



24年度 n = 22、25年度 n = 23、平成26年度 n = 31

上の表は平成24年度、平成25年度、平成26年度それぞれのピアノ試験結果である。全ての年度において、前期の点数より後期の点数が低いことがわかる。この結果には二つの理由が考えられる。まず一つ目は、前期の試験曲よりも後期の試験曲の方が、難度が高いこと。そして二つ目は、スキルアップ卒業生の点数低下によるものである。スキルアップ卒業後も自分で努力を積み重ね、点数が伸びている学生も数名いたのだが、卒業生のうち6割の学生は試験の点数が下がっていた。スキルアップ講座を1年間受講した学生中、8割の学生は成績を維持することができた。ピアノ等技術科目は、毎日の積み重ねが大事であり、スキルアップ講座で定期的に指導を受けることが点数に影響しているとも考えられる。この結果を踏まえて今後の指導の在り方を検討していきたい。

(3) スキルアップ（ピアノ）講座
終了時の自由記述アンケート

3年間で76名の学生がスキルアップ講座を受講した。講座終了後の感想の一部を以下に述べてみる。

◆ピアノを上手弾くことが出来ず、涙することがありました。講座では一曲、一曲合格することが嬉しくて、講座以外でも自主練習をし、どんどん弾けるようになり、自信もつきました。

◆初心者で、楽譜を読むことすらできなかったのに、卒業出来て本当に嬉しいです。自分で時間を見つながら練習に取り組み、我ながら本当に頑張ったと思います。

◆先生が一曲合格する度に褒めてくれ、次への励みになり、最後まで頑張ることができました。

◆自分一人で練習をしていたら、音やリズムがわからないまま諦めていたと思う。しかし、スキルアップでは友達や先生に気軽に聞くことができ、わからないままにならず、間違いに気づくことができる環境は自分にとってよかったと思う。

◆人前で弾くとあがってしまって普段通り演奏できなかったのだが、スキルアップのレッスン時や、弾き合い会、成果発表会などを経験することで、人前で弾くことに慣れてきました。ピアノに対しての苦手意識をなくせるよう、毎日少しでもピアノに触れていきたいと思っています。

◆最初は本当に卒業できないと思っていましたが、初心者でもやればできることを実感できました。努力をして良かった。ピアノの先生とスキルアップの先生に感謝です。

◆丁寧に指導して下さってとても嬉しかったです。しかし、教わったことを毎日続けて練習することができなかつたので、これからはもっとピアノの練習時間を見つけて頑張りたいと思います。

◆授業内のレッスンだけでは不安だったけど、スキ

ルアップを受講してから少しだけ不安がなくなりました。自由参加で人数も少なかったので、気軽に先生方にわからないことを尋ねることができました。

◆受講することで、練習時間を確保することができ、ピアノ技術をスキルアップすることができました。たまに行かなかったことが反省点です。指導を受けた際は具体的なアドバイスもいただき、それに沿った練習ができたので良かったです。

◆前期は受講していましたが、後期はほとんど受講せず反省しています。その結果、自分のピアノも上達できていないと思います。何回も弾いてこそ上手くなると思うので、自分できちんと練習できるよう頑張ります。

<考察>

苦手意識を持っている学生対象の講座のため、まずは参加してもらうことを念頭に置き取り組んできた。努力を積み重ねていく学生は結果が出ており、学生自身も達成感を持つことができた。無断欠席をする学生もいるが、欠席したことを責めるのではなく、本人の気持ちも尊重しつつ、その学生に応じた声のかけ方を行った。毎年数名は対応の難しさを感じる学生もいたが、本人の気持ちが前向きになった時を見計らい、講座参加を促した。

学生の自由記述からも読み取れるように、スキルアップ講座はただ単に技術を教えるだけでなく、学生の不安を受け止め、会話を交わしながら演奏力と同時に内面的なサポートも行っているといっても過言ではない。これからは技術面と内面的のサポートを子どもと音楽I aの教員と共に連携を取りながら進めていきたい。

IV. おわりに

平成24年度から開始したこの講座は、学生の学習のサポート・動機づけを目的とし、少しでも学生の不安を取り除くことができればと計画実施してきた。学生の調査結果から、楽譜が読めるか読めないかでその後の演奏力に大きな差が生まれる可能性があることがわかった。保育養成校に進む意思のある学生でピアノ未経験者は、入学前までに楽譜を読む練習およびピアノに触れる機会をつくる必要性を伝

えておくことが、本人のつまずきを解消する一つの方法であると考え。また、スキルアップ講座を卒業すると気が緩み練習がおろそかになる学生もいるため、講座卒業後も声掛けや自由参加という形で定期的に状況を把握し、適宜対応することが今後の課題である。高木(2003)^{註1)}はピアノが苦手な学生は、「音楽」の授業で「できない」「分からない」という経験を重ねてきたからだろうと推測する。「できないからしたくない、しないからますますできなくなる、という悪循環である。音楽が嫌いなまま現場に出て幼児と関わることは、学生本人にとっても幼児にとっても不幸である。どこかで悪循環を断ち切らねばならない。」と述べているように、子ども達に音楽や表現することの楽しさを伝えるためには、学生自身が音楽に触れる楽しさを在学中に経験することが大切である。苦手意識を持っている学生が目への壁を乗り越えることにより、将来保育者として子ども達と向き合う際に、子どもの心に届く言葉かけや関わり方ができると考えられる。スモールステップでも、一步一步前に進めば、必ず目標を達成できることを保育スキルアップ(ピアノ)講座を通して今後も学生に伝えていきたいと考える。

引用・参考文献

引用

註1) 高木 夏奈子(2003)

「ピアノが苦手な学生」の「つまずき」の分析

参考文献

青井 則子、難波 希久子、中川 智之、

入江 慶太(2014)

幼稚園教諭・保育士養成における音楽教育の実践と

評価：3年制短期大学における取り組み

小松 洋子(2013)

保育者養成校のピアノ初心者に対する指導について

—ピアノ特補の試み—